

修士論文（要旨）

2024年1月

中国温州市小中学校における「食育」活動促進のための考察
—日本の「食育」事例を参考に—

指導 山本 薫 教授

国際学術研究科
国際学術専攻
グローバルコミュニケーション実践研究学位プログラム
222J1005
楊 国瑜

Master's Thesis (Abstract)
January 2024

An Investigation on the Promotion of "Shokuiku (Food Education)"
Activities in Elementary and Junior High Schools in Wenzhou City,
China

YANG GUOYU

222J1005

Master of Arts Program in Global Communication
Master's Program in International Studies
International Graduate School of Advanced Studies
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Kaoru Yamamoto

目次

序章：	-----1
第1節. 研究目的	-----1
第2節. 研究背景	-----1
第3節. 「食育」の定義	-----2
第4節. 研究方法	-----2
第1項. 文献調査	-----2
第2項. 事例研究	-----2
1) 中国(中国温州市文彙中学校と温州市第四小学校)	-----2
2) 日本(東京農業大学附属稲花小学校・学校法人自由学園)	-----3
第1章：日本の「食育」	-----4
第1節. 「食育」の歴史	-----4
第2節. 「食育」に関する政策	-----5
第1項. 「食育」に関する法律	-----5
1) 「学校給食法」	-----5
2) 「食育基本法」	-----6
第2項. 農林水産省「食育推進基本計画」	-----7
第3節. 「食育」の取り組みと現状	-----7
第1項. 学校教育における「食育」	-----7
第2項. 社会・行政による「食育」	-----9
第3項. 家庭における「食育」	-----10
第4節. まとめ	-----11
第2章：中国の「食育」	-----12

第1節. 「食育」の歴史	-----12
第2節. 「食育」に関する法律と政策	-----13
第3節. 「食育」の取り組みと現状	-----14
第1項. 「食育」科学研究分析	-----15
第2項. 「食育」に関する書籍	-----15
第3項. 「食育」の実践実態	-----15
第4節. まとめ	-----18
第3章：中国における意識調査	-----20
第1節. 中国温州の「食育活動」の現状	-----20
第2節. 中国温州市文彙中学校における意識調査結果	-----21
第1項. 食に対する意識	-----21
第2項. 学校における「食」の知識伝達	-----21
第3項. 「食育」への要望	-----22
第3節. 中国温州市第四小学校における意識調査結果	-----22
第1項. 食に対する意識	-----22
第2項. 学校における「食」の知識伝達	-----23
第3項. 「食育」への要望	-----23
第4節. 中国温州市文彙中学校と第四小学校の生徒の保護者の「食育」への意識	-----24
第5節. まとめ	-----24
第4章：日本の「食育」活動事例調査	-----25
第1節. 東京農業大学稲花小学校における「食育」活動	-----25
第1項. 東京農業大学稲花小学校と「食育」	-----25
第2項. 稲花小学校の「食育」プログラム	-----25
1) 給食のメニュー	-----25

2) 「食育」の教授法	-----26
第3項. 企画運営	-----27
第4項. 「食育」の効果と評価	-----28
第5項. 稲花小学校の「食育」プログラムの成功の鍵と中国で応用する際のポイント	---29
第2節. 自由学園の事例調査	-----30
第1項. 「食育」プログラム	-----30
1) 給食のメニュー	-----31
2) 食に関する行事	-----31
3) 給食時の「食育」の指導方法	-----31
第2項. 企画運営	-----31
第3項. 「食育」の効果・評価	-----32
第4項. 自由学園の「食育」プログラムの成功の鍵と中国で応用する際のポイント	---33
第3節. まとめ 稲花小学校、自由学園の事例から学べること	-----35
第5章：中国温州で「食育」活動を促進するための課題と展望	-----36
第1節. 学校システムの課題	-----36
第2節. 政府関係の課題	-----37
第3節. 教員関係の課題	-----37
第4節. 持続可能性の確保	-----37
第5節. 保護者からの協力	-----37
第6節. 食を通じた教育の意義	-----38
第6章：本研究の貢献と今後の課題	-----38

参考文献	-----I
日本語	-----I
中国語	-----IV
資料付録	----- -1-
1. 農大稲花小学校献立例	----- -1-
2. 農大稲花小学校 給食用パワーポイント例	----- -2-
3. 農大稲花小学校献立(ホームページ)	----- -4-
4. 農大稲花小学校 「給食たより」	----- -4-
5. アンケート結果用円グラフ	----- -4-
6. アンケート調査統計表	----- -7-
7. 中国学校向け インタビュー調査質問表 (中国語)	----- -14-
8. 中国学校向け インタビュー調査質問表 (日本語訳)	----- -16-
9. 農大稲花小学校向け インタビュー調査質問表 (日本語)	----- -18-
10. 自由学園向け インタビュー調査質問表 (日本語)	----- -19-
謝辞	

要旨

本研究では中国温州市での「食育」の推進に向けた具体的な提案を行うことを目的としている。そのため、「食育」の普及が進んでいる日本の「食育」を参考に「食育」活動促進の成功の鍵、実行するにあたっての課題を把握、分析した。そして、実際に中国で「食育」を推進する際の課題と対処法を探求した。まずは日本と中国の「食育」のための歴史と政策を比較した。次に現状把握として中国温州市の小学校と中学校の生徒、保護者、教員を対象とした「食育」に関する意識調査を行った。日本では事例研究として、稲花小学校と自由学園を訪問、見学し、「食育」担当教員から実際の運営方法についてのインタビューを行った。結果、「食育」を通して生徒の「生きる力」を育むという、より深い観点を理解し、中国においてもその意義の重要性は高いと再確認し、「食育」促進のための提案を示した。

第一章では、日本の「食育」の歴史、政策、現在の普及率を概観した。「食育基本法」や「学校給食法」の制定など、国全体で「食育」推進の重要性を強調してきたことが明確となった。

第二章では、中国の「食育」の歴史と現状を探った。中国における「食育」は、医食同源の伝統的な理念を持ちつつも、近代化の進展と共に新たな課題が生じていることが指摘された。特に、改革開放政策以降の食生活の変化に対応するための国家レベルでの政策展開が必要であることが示された。

第三章では、中国温州市の現状分析として意識調査を行い、温州市の小中学校では、「食育」への取り組みが不十分であり、学校と保護者間のコミュニケーションの欠如、食材の産地や栄養知識に関する情報源の不足が明らかにされた。

第四章では、日本の事例調査結果を分析した。給食を通じた多様な教育プログラムの実施は、栄養教育の充実、地域との連携強化などに加え、「食育」成功の重要な要素として、生徒の学習意欲向上、学習効果増大、そして逆境力やコミュニケーション力など、文科省でも目的として挙げられている「生きる力」を育成する効果があることが示された。

第五章では、上記の調査結果に基づき、温州市における「食育」推進のための具体的な提案として、経費の確保、施設と設備の整備、専門スタッフの育成、給食時間と場所の調整、保護者の協力などを主要課題として示した。また、地元企業や農業組合との連携、家庭での「食育」支援、学校教育との融合など、具体的な解決策も提示した。

最終章では、本研究が貢献し得る点と、今後の課題をまとめた。本研究は、中国温州市における「食育」の現状をふまえたうえで、日本の事例を参考にした「食育」推進方法を探求し、学校給食プログラム改善の重要性とその実践方法に新たな視点を明示した。本研究は、「食育」の普及と推進の重要性を指摘し、実践的な事例と課題を提供することで、今後の「食育」推進に向けた実践的な指針を提供するものである。今後の課題として、温州以外の地域での「食育」実践の可能性の探求、全体としての評価方法の開発、プログラムの改善策の考案に努めたい。これからは、中国の他地域や他の国々での「食育」の普及と推進に向けた研究につなげたい。

Abstract

This study aims to understand the current state and challenges of “Shokuiku” (food education) in Wenzhou, China, and to propose concrete measures for the promotion of “Shokuiku” learning from the Japanese practices. Japan was more advanced in the promotion of “Shokuiku” compared to China, reviewing the history and government policies on “Shokuiku.” The survey was conducted to grasp the current situation and understand the interests on “Shokuiku” (food safety and implementation of “Shokuiku”) by the students, parents and teachers of the elementary and junior high schools in Wenzhou. The visits to the Inaka Elementary School and Jiyugakuen in Tokyo, Japan, and the interviews with the teachers in charge of “Shokuiku” clarified the importance and the meaning of “Shokuiku” and how they implement the programs. Then the suggestions are made to promote “Shokuiku” more effectively in Wenzhou, China, based on the learnings from the cases in Japan.

Chapter 1 overviewed the history and policies of “Shokuiku” in Japan, emphasizing the importance of nationwide promotion of “Shokuiku” based on the “Basic Act on Shokuiku” and the School Lunch Law. It revealed that Japan has been advancing “Shokuiku” through school lunches, focusing on nutritional education and respect for food culture, and basic human skills such as communication competence and resilience.

Chapter 2 explored the history and current state of “Shokuiku” promotion by the government in China. China, though it has the history with the Eastern Medicine of valuing the food as part of maintaining health, the “Shokuiku” was not as promoted in modern China. There is a need for national-level policy to promote “Shokuiku” to respond to the diet changes since the Reform and Opening-up.

Chapters 3 analyzes the results of the surveys and interviews conducted to the students, parents and teachers at the grade school and junior high school in Wenzhou, China. In those schools, the implementation of “Shokuiku” was found to be insufficient, with a lack of communication between schools and parents and a shortage of information about the food products (production area, nutritional information etc.)

Chapter 4 analyses two in-depth case studies on how the “Shokuiku” has been carried out by two renown schools on the implementation of Shokuiku in Tokyo, Japan: Inaka Elementary School and Jiyugakuen. Both schools emphasized the effects of learning through the process of food preparation, eating and cleaning up together. Students learn not only about food but also basic skills to communicate, work in team and practice self-reliance and resilience. Students effectively learn various subjects such as Chinese characters, biology and geology through school lunches and other activities. The key elements for successful “Shokuiku” include guaranteeing to provide safe and healthy food, strengthening community collaboration, exploring creative ways to teach various subjects through school lunch and other food-related activities.

Chapter 5 proposes concrete measures for the promotion of “Shokuiku” in Wenzhou based on these findings above. Securing funding, facility and equipment development, professional staff

training, adjusting mealtimes and locations, and parental cooperation were identified as major challenges. In addition, collaboration with local businesses and agricultural cooperatives, support for “Shokuiku” at home, and integration with school education were proposed as concrete solutions.

The final chapter summarizes the contributions of this study and future research directions. This study clarified the current state of “Shokuiku” in Wenzhou, China, and explored methods of promoting “Shokuiku” based on Japanese examples. This research has provided new perspectives on the importance and practical methods of school lunch programs. Additionally, it offered guidelines for the dissemination and promotion of “Shokuiku” in other regions of China and other countries. I would like to continue exploring how to promote “Shokuiku” practices in other regions, developing evaluation methods, and improving programs.

In summary, this study highlighted the importance of disseminating and promoting 'Shokuiku', providing practical examples and challenges, and offered practical guidelines for future “Shokuiku” initiatives. I hope to continue exploring the ways to promote “Shokuiku” in all regions of China and other countries.

参考文献

日本語

- 足立愛美. (2020). 「対話を取り入れた食育の実践の考察」. 『研究紀要』. 27.
- 足立己幸, 衛藤久美. (2005) 「食育に期待されること」. 『栄養学雑誌』. Vol. 63. No. 4.
- 新井英志. (2021). 「栄養教諭の食に関する指導の現状と課題の考察 -北海道における実態調査を踏まえて-」. 『天使大学紀要』. 21(2).
- 新井美希. (2016). 「近年の国際開発目標をめぐる動向 : MDGs から 2030 アジェンダへ」. 『調査と情報』. 898.
- 石塚左玄. (1896). 『化学的食養長寿論』. 博文館.
- 石塚左玄. (1917). 『通俗食物養生法』. 石塚食療所編集部.
- 石橋ちなみ. (2019). 「栄養教諭の食に関する指導と児童, 保護者の食の実態との関連」. 『県立広島大学人間文化学部紀要』. 14.
- 大森玲子, 上原秀一, 佐藤雅子, 露久保美夏, 田尻泉, 久保元芳, 宮代こずゑ. (2020). 「言語表現力育成と連動した食育プログラムの開発——小学生を対象とした実践を踏まえて——」. 『地域デザイン科学 : 宇都宮大学地域デザイン科学部研究紀要』. 8.
- 小野瀬剛志. (2010). 「社会システムとしての食糧問題と食環境概念の再検討 -食教育の概念的整理にむけて-」. 『環境教育』 20 . 1.
- 檜原正澄. (2022). 「大阪府内学校給食の変遷と今後の課題」. 『関西大学経済論集』. 71(4).
- 菊地 るみ子. (2014). 「中国の学校教育における食育カリキュラム開発の支援」. 『高知大学挑戦的萌芽研究』.
- 黒谷佳代, 新杉知沙, 千葉剛, 山口麻衣, 可知悠子, 瀧本秀美, 近藤尚己. (2019). 「小・中学生の保護者を対象とした『子ども食堂』に関するインターネット調査」. 『日本公衆衛生雑誌』. 66(9).
- 厚生労働省. (2002). 「BSE 問題に関する調査検討委員会報告」.
<https://www.mhlw.go.jp/kinkyu/bse/04/cyosa.html>.
- 厚生労働省. (2004). 「平成 16 年版厚生労働白書」.
<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/04/>.
- 厚生労働省. (2012). 「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針」.
https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00012990&dataType=0&pageNo=1.

- 厚生労働省. (2016). 「8020 運動・口腔保健推進事業実施要綱」.
https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/160401_8020_jisshiyokou.pdf
- 厚生労働省. (2019). 「授乳・離乳の支援ガイド」.
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04250.html
- 厚生労働省. (2021). 「妊産婦のための食生活指針」.
<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/02/h0201-3a.html>
- 河野公子. (2007). 「食育」. 『日本食品科学工学会誌』 54. 4.
- 社団法人日本栄養士会子どもの健康づくりと食育の推進・啓発事業委員会(1999). 「平成 10 年度子どもの健康づくりと食育の推進・啓発事業『乳幼児からの健康づくりと食育推進のための基礎調査報告書』」
- 昭和二十九年法律第百六十号「学校給食法」. (2015). <https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=329AC0000000160>.
- 張爍.(2017).「中国、『栄養改善計画』が農村の学生 3600 万人を援助」.『人民網日本語版』.
<http://j.people.com.cn/n3/2017/0306/c94475-9186522.html>.
- 東京都福祉局. (2023). 「保育士等キャリアアップ研修ガイドライン」.
<https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/kodomo/hoiku/careerup-kensyu.html>.
- 永野和美. (2021). 「ヘルスプロモーション：食育を通して育むもの」. 『研究紀要：神戸大学附属中等 論集』. 5.
- 日本公衆衛生協会. (2019). 「大規模災害における栄養・食生活支援活動の連携体制と人材育成に関する研究」. http://www.jpha.or.jp/sub/pdf/menu04_2_h30_02_13.pdf.
- 農林水産省. (2002). 「『食』と『農』の再生プラン」.
https://www.maff.go.jp/j/study/other/keiei/noukyo_study/pdf/1s6.pdf.
- 農林水産省. (2008). 「平成 20 年度食育白書」.
<https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/9929094/www8.cao.go.jp/syokuiku/data/whitpaper/2008/pdf-honbun.html>.
- 農林水産省. (2017). 「平成 28 年度食育白書」.
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/h28_index.html.
- 農林水産省. (2018). 「食生活指針」. <https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/shishinn.html>.
- 農林水産省. (2018). 「平成 29 年度食育白書」.
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/h29_wpaper.html.
- 農林水産省. (2023). 「令和 4 年度食育白書」.
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/r4_index.html.

- 農林水産省. (2022). 「第4次食育推進基本計画」.
<https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/attach/pdf/kannrennhou-24.pdf>.
- 服部幸應. (1998). 『食育のすすめ』. マガジンハウス.
- 林薫. (2016). 「家庭における父親の食育への関わりに関する研究 2015年度報告」. 「白梅学園大学研究年報」. (21).
- 櫃本真美代. (2011). 「環境教育における環境コミュニケーションの意義と可能性について」. 『応用社会学研究』. 53.
- 平成十七年法律第六十三号「食育基本法」. (2015). https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=417AC1000000063_20160401_427AC0000000066&keyword=%E9%A3%9F%E8%82%B2%E5%9F%BA%E6%9C%AC%E6%B3%95.
- 三島孔明. (2018). 「親に対する食育の重要性と課題」. 『食と緑の科学』. 72. 6.
- 森有沙. (2020). 「児童生徒の食生活と QOL の関連性-学校や家庭での食に対する意識から-」. 『郡山女子大学紀要』. 56.
- 森田倫子. (2004). 「食育の背景と経緯-『食育基本法案』に関連して-」. 『国立国会図書館』. ISSUE BRIEF 第457号.
- 森美佐紀. (2016). 「幼児期における食育の現状と課題」. 『東京女子大学紀要論集』. 67(1).
- 文部科学省. (2019). 「食に関する指導の手引き-第二次改訂版-」.
https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1292952.htm.
- 文部科学省. (2003). 「食に関する指導体制の整備について」.
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/04011502.htm.
- 文部科学省. (2017). 「中学校学習指導要領平成29年(告示)」.
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/05/07/1384661_5_4.pdf.
- 劉智萍. (2013). 「中国の学校教育における食育カリキュラム開発(1)-中国の子どもをめぐる食生活の現状と課題-」. 『高知大学学術研究報告』. 62.

中国語(ピンインのアルファベット順)

- 段一凡, 劉愛萍, 張倩. (2005). 「都市儿童 1998 年和 2008 年早餐行为比较」. 『中国学校卫生』. 32. 12.
- 杜笑涵, 刘望. (2020). 「新冠疫情背景下食育教育指标体系的构建与应用」. 『经济研究导刊』. 23.
https://doi.org/SUN_JJYD.0.2020-23-061_.

- 冯月明,梁新,朱文麗,李艾军,李铮.(2015).「北京市丰台区小学生饮食行为现状及其家庭影响因素」.『中国学校卫生』.36.1
- 顾颖润.(2018).「把“食育”融入校本语文课程」.『教海探航』.2018(6).
- 国务院.(2016).“健康中国 2030”规划纲要.
https://www.gov.cn/gongbao/content/2016/content_5133024.htm.
- 『黄帝内经』.(張凤娇, Trans.). (2015). 北京联合出版公司.
<https://zhuanlan.zhihu.com/p/636271864>.
- 教育部.(2019).「学校食品卫生安全与营养健康管理」.
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A02/s5911/moe_621/201903/t20190311_372925.html.
- 教育部.(2022).「義務教育課程方案和課程標準(2022 年版)」.
http://www.moe.gov.cn/jyb_xwfb/gzdt_gzdt/s5987/202204/t20220421_620068.html?eqid=a61ed9ea0001db5400000003643e02de.
- 匡婷婷,楊来宝,楊郗.(2015).「上海市某社区小学生营养知识、态度与行为现状分析」.『上海医药』.36.14.
- 蓝晓芳,夏燕琼,秦祖国,劉貴浩,湯捷.(2013).「广东省经济欠发达地区农村中小学生学习营养知识和行为健康教育干预效果评价」.『中国健康教育』.29.5.
- 李里特.(2006 a).「关注教育的重要领域——食育」.『北京观察』.5.
- 李里特.(2006 b).「“食育”不可小视」.『大众医学』.8.
- 李里特.(2006 c).「食育是国民健康的大事」.『中国食物与营养』.3.3.
- 李里特.(2010).「国民素质教育的新课题—食育」.『农产品加工·创新版』.5.4
- 刘蓓.(2018).「在生物学教学中开展食品安全与营养教育的研究与实践」.『山东师范大学』.
- 刘鹏.(2011).「中国古代食育思想述论」.『浙江工商大学』.DOI:10.7666/d.Y2070437.
<https://max.book118.com/html/2016/1226/77379860.shtm>.
- 刘岩,来顺琪.(2022).「中医典籍《黄帝内经》在日本的传播、翻译与接受」.『语言、翻译与认知』.
- 陆少明.(2005).「静安区中小学健康饮食现状调查」.『上海教育科研』.1.
- 陆少明.(2010).「小学饮食营养教育校本课程的开发与实施」.『现代中小学教育课程研究 2010』.
- 曼莉(2021)「生活·实践教育视野下中小学食育课程的实施策略」.『湖北教育』.2021.
- 宁本涛, 邱燕楠.(2022).「后疫情时代改进“食育”制度的思考」.『北京教育学院学报』. 34.02.
<https://doi.org/10.16398/j.cnki.jbjieissn>.
- 王园.(2018).「小学体育课实施饮食健康教育的研究」.『北京首都体育学院』.
- 魏忠福.(2000).「小学生不良饮食习惯调查」.『职业和健康』.16.11.

- 叶根花,雷永良,叶夏良,鐘軍華(他).(2016).「小学生膳食营养知识态度行为调查」.『浙江预防医学』.28.5.
- 尤莉莉,刘璐,何欣玥,周南,任学鋒,田向陽,翁永凯,劉遠立.(2017 a).「食育对改善农村小学生饮食相关健康素养的效果」.『中国健康教育』.33.6.
- 尤莉莉,刘璐,毛春蕊,杨毅,何欣玥,刘爱萍.(2017 b).「农村贫困地区学龄儿童的食物摄入状况分析」.『中国生育健康杂志』.28.4.
- 朱雯霞.(2020).「“健康中国”背景下乡村小学生食品安全教育现状及对策研究」.『语言、翻译与认知』. <https://doi.org/10.27216/d.cnki.gysfc.000271>.
- 张格,陈晓红,陶敏.(2015).「营养教育对小学生饮食行为和体质的影响因素探讨」.『TODAY NURSE』.10.
- 中国食育网.(2022).「中国食育報告 2022」
- 中国营养学会.(2016).『中国居民膳食指南 2016』.人民卫生出版社
- 中华人民共和国义务教育法.(2018). https://www.gov.cn/guoqing/2021-10/29/content_5647617.htm.